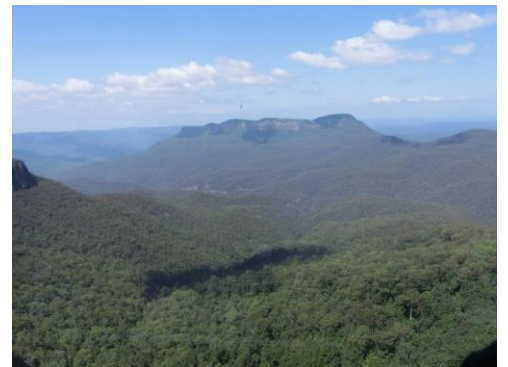


平成 29 年度 SSH オーストラリア研修 生徒報告

国際交流員会・研究開発部

【日程】

月日	現地時刻	行程	宿泊地
3月3日 (土)	10:30 16:50 20:40	シンガポール航空にて シンガポール着 シンガポール発 シドニーへ	機内
3月4日 (日)	7:40 終日	入国手続き ブルーマウンテンズ国立公園 シドニー天文台	ホテル
3月5日 (月)	終日	ボーカムヒルズ高校 授業参加	ホームステイ
3月6日 (火)	午前 午後	ボーカムヒルズ高校 授業参加 パナソニックオーストラリア訪問	ホームステイ
3月7日 (水)	終日	ボーカムヒルズ高校 授業参加	ホームステイ
3月8日 (木)	午前 午後	ボーカムヒルズ高校 授業参加 シドニー大学サイエンス学部 河合玲一郎先生の講義 (数学)	ホームステイ
3月9日 (金)	終日	ボーカムヒルズ高校 授業参加 ボーカムヒルズ高校 交流学习	ホームステイ
3月10日 (土)	8:00 16:10 21:20	ボーカムヒルズ高校に集合 フェザーデール・ワイルド・ライフパーク シドニー市内で昼食 シンガポール航空にて シンガポール着	機内
3月11日 (日)	1:20 8:30	シンガポール発 中部国際空港へ	



ブルーマウンテンズ国立公園を訪れて

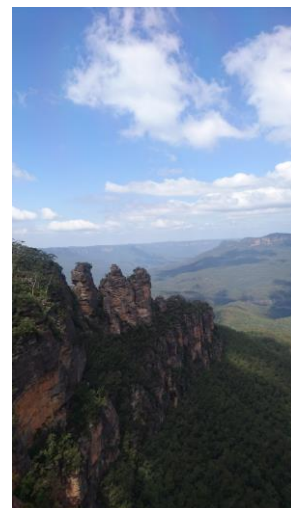
オーストラリア研修最初の研修場所はブルーマウンテンズ国立公園でした。この場所は 2000 年に世界遺産に登録され、その名の由来の通り、何十種類ものユーカリが自生していました。飛行機から降りて最初の研修で日差しが強かったということもあり多少の疲れがありましたが、入場用のバーコードを手首に巻き付けてゲートをくぐった瞬間にその疲れは吹き飛びました。一面に広がったユーカリの木々は広大で地平線まで続いているようでした。とてもきれいな絶景で自分がいかに小さいかを思い知らされました。続いてロープウェイで谷底へ降りてユーカリを間近で見ました。ガイドさんにそれぞれのユーカリの違いを教わりながら進んでいきました (何十種類もあるわけなのでそれらの違いを完璧に理解することはできませんでしたが…)。少し進むと、かつて使われていた炭坑の入口がありました。当時は先住民族のアボリジニが働かされていたと聞いて歴史の凄惨さを感じました。その後、勾配約 52 度のレールウェイに乗りました。その勾配は世界で最も急で恐怖を感じましたが、日本ではあまり見られないので新鮮でした。まさかのバック発進だったのも驚きです。そして昼食にハンバーガーを食べた後、また別のロープウェイに乗りました。床が筒抜けになるというおまけつきでしたが、ロープウェイから見える滝にくぎ付けだったのでそれほど怖くはありませんでした。最後に奇岩として有名なスリーシスターズという岩の近くまで行きました。断崖絶壁の上を階段で降りたのでハラハラドキドキでした。この公園への移動中、スリーシスターズにはアボリジニの伝説があることを聞いていたので、情景を思い浮かべながら楽しむことができました。どの景色も日本にはないものばかりで有意義な時間を過ごすことができました。全ての場所を見ることはできませんでしたが、雄大な自然に触れることで世界は広いのだという意識をもつきっかけになりました。



ブルーマウンテンにて

私達は飛行機を降りてすぐ、ブルーマウンテン国立公園へ向かいました。なぜブルーマウンテンという名前がついたのか、それはブルーマウンテンを構成するユーカリに関係しているそうです。夏になると、ユーカリに多く含まれている油が蒸発し、その粒子に太陽光が当たると青色の光が発生します。それを見た昔のオーストラリアの人は、「青く見えるからブルーマウンテンと名付けよう」ということでこの名前になったそうです。でも、私達が行ったときはそこまで気温が高くなかったのか、青く見えませんでした。この名付けからも、オーストラリアの人の性格（ちょっと適当）が分かり、研修中にそう思うことも何度かありました。

また、ブルーマウンテンの中にスリーシスターズという岩がありました。一見するとただのこぶのような3つの岩だったのですが、アボリジニの面白い言い伝えがありました。それは、次のようなものです。ある所に三姉妹と魔法使いの父であるお父さんがいました。ある日突然三姉妹の下に魔女がやってきて、三姉妹に悪さをしようとしています。それを見た父親は魔法の杖で彼女たちを岩にしてみました。また、自分に魔女が襲いかかってきたので、自分を蝶にしてみました。それと同時に魔法の杖を落としてしまい、今でも蝶になったお父さんは杖を探し、三姉妹は元の姿に戻るのを待っているのです。このように、歴史や言い伝えを学ぶことで、その国の人の性格や価値観を学ぶことができると感じました。このことを活かし、これからいろいろな国の歴史などを学びたいと思います。



シドニー天文台とシドニー市内研修

予定よりも早く事が進んだので、私たちは天文台に行く前にシドニー内の見学をすることになり、オペラハウスやマンリービーチに行きました。いつも教科書で見ていたオペラハウスを生で見たときは、みな興奮し、テンションが上がってしまいました。自由行動の時間を設けられて、オペラハウスの中に入ろうとしましたがどうやら場所を間違えてしまったようで、ガードマンに止められてしまいました。なんとか自分の英語で説明してオペラハウスの中のトイレを使わせてもらうことが出来ました。

その後、私たちは夕飯をすませ、天文台に向かいました。その日は機内泊で十分に睡眠がとれていなかったため(私自身3時間しか寝ていない)、少し疲れており、きれいな星を前に寝落ちしてしまうことが心配でした。室内に案内されて、まず私たちは天文台の設備のすごさに驚きました。約150年前につくられた望遠鏡や、屋根を自由に開閉できるドーム型の部屋などが設置されていました。そして、それはかつて天文学者の家であったそうです。

この日はあいにくの曇りで、私たちは実際に星を観察することができませんでした。しかし、ハーバーブリッジの上にあるオーストラリアの国旗の星を見せてくれる指導員さんの神対応もあって、望遠鏡の説明を最後まで楽しく聞くことが出来ました。

次に向かったプラネタリウムは、アットホームな場所でもて居心地がよかったです。みんなで円になってソファに座り、星を観ました。プラネタリウムの説明の中には、南十字星などの日本では見られない星を観察することが出来ました。また逆に、いつも日本からみている星の中には南半球にあるオーストラリアからも見ることで出来るものがあると知って、海を隔てていても同じ空の下で生活しているのだということを感じさせられました。

この天文台の研修では、疑問があったらその場で即座に質問できたので、英語をしゃべってみたいという気持ちと、より追究したいという気持ちから、常に自分からいつもよりも深く思考を巡らせることが出来ました。その後のホームステイでそれぞれバディの家に滞在している間に、南十字星を観る機会をつくることができたので、本当に良い学習ができたと思っています。



ボーカムヒルズ高校の授業に参加して

ボーカムヒルズ高校の授業は日本の高校とは違うところだらけでとても驚きました。その中でも一番の違いは、受ける授業を生徒が自分で選択するところです。ボーカムヒルズ高校ではクラスメイトと一緒に授業を受けるのではなく、自分と同じ進路を目指している人と一緒に授業を受けます。なので生徒一人一人が自分の進路についてしっかりと考えていて素晴らしいと思いました。

他にも、ボーカムヒルズ高校と日本の違いはたくさんあります。日本の高校の授業は一授業50分なのに対して、ボーカムヒルズ高校は一授業40分です。



また、日本の生徒は授業中にノートにメモをとるのに対して、ボーカムヒルズ高校の生徒はみんな、パソコンや iPad を使ってメモをとっています。そして、教科書はパソコンや iPad などにダウンロードしたものを使用し、先生は黒板ではなくプロジェクターを使って授業をしていてとても驚きました。

他にも日本の高校では英語以外の外国語を学ばないのに対して、ボーカムヒルズ高校では日本語やラテン語、古代ギリシャ語、フランス語、韓国語など様々な言語を学ぶことができます。なかでも日本語が一番の人気だそうです。私は将来、たくさんの国の人とかかわることが出来る仕事に就きたいと考えているので、様々な外国語を学ぶことができることをとても羨ましく思いました。

5日間ボーカムヒルズ高校に通って、たくさんの生徒や先生方と出会いましたが、みなさんとても親切で、私が何をしたらいいかわからず困っていたり、英語が聞き取れなかったときには、日本語で丁寧に教えてくれてとても助かりました。私が楽しい5日間を過ごせたのはボーカムヒルズ高校の方々のおかげです。本当にありがとうございました。

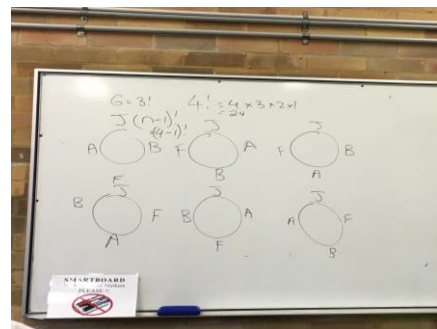


ボーカムヒルズ校の授業に参加して

私はバディの Linda と共に5日間を通じて英語、数学、物理、経済、地理、日本語、美術、体育の授業に参加しました。どの生徒もノートパソコンやタブレットを持っていて、先生の言ったことをメモしたり、レポートを書いたりしていました。パソコンの中に教科書、授業で使うプリントなどのデータも入っていて、持ち運ぶものが少なく便利だなと思いました。ただし、数学や日本語の授業ではノートに問題を書いたり、漢字プリントが配られ3回ずつ練習したりと手を動かすことの重要性は残っていました。

特に印象に残ったのは数学の授業です。円順列について学習するときに、生徒4人が代表となり円になって、どんな組合せが出来るのかを生徒同士話し合っていました。先生から生徒への一方向の授業でなく、双方向の授業だなと思いました。生徒は近くの席の人と「こんな式が成り立つのかな?」「どうしてあの並び方は1番最初の並び方と同じとみなされるの?」などと積極的に話し合っていました。先生が解説するときも質問が沢山出て、ボーカムヒルズ校の生徒の授業に対する前向きな姿勢を感じることができました。日本人はこのように時に発言するのを躊躇したり、その場で質問せず授業の後に先生に質問しに行ったりとやや消極的になってしまいます。今まではそれを当たり前だと思っていたけれど、それでは駄目だと気付くことができました。

今後はクラスの前で発言する時や、グループで話し合う時に自分から話していきたいです。将来、海外の大学に短期留学することがあったら今回学んだことを教訓にして、先生や周りの生徒に質問したり、一緒に議論したりしたいです。



プレゼンテーションを行って

私は先輩と一緒に日本のセンター試験とオーストラリアの統一試験の比較についてのプレゼンテーションを行った。テーマを決めるとき、私たちは漠然と日本とオーストラリア、その他の国の教育の比較、という風に決めてしまいがちなかと思うように制作が進まなかった。日本の教育についてはわかるけれど、オーストラリアやその他の国の教育については、インターネットや本で調べても、それが本当なのか、プレゼンテーションをしたときに共感してもらえるものなのか、わからなかった。そうやって行き詰った時に担当してくださった先生や先輩と相談してセンター試験とオーストラリアの統一試験の比較というテーマに絞ってほとんど最初から作り直した。たくさんセンター試験とオーストラリアの統一試験の過去の問題を調べて結果をまとめた。オーストラリアの統一試験を見てみると選択肢を選ぶ形式の問題はとて少なくエッセイタイプの問題ばかりだった。こんなにたくさんの文量の考えを書かなくてはいけないなんて、オーストラリアの学生はすごいな、と驚かされた。調べるのは時間のかかることだったが、とても面白かった。スライドを作ることも私にとっては初めての経験だった。パソコンなんて使えなかったのに頑張ったな、と思う。読む練習も何回もした。たくさん準備してきたが、本番マイクの前に立つと緊張した。しかし話し始めるとそれはなくなっていった私たちの調べたこと、考えていることを伝えたい、というずっと持っていた気持ちがわいてきた。たくさん出るはずだ、と思っていた質問は出なかったが終わった後はやりきったという思いと、長い間頑張ってきたことが終わってしまっって少し悲しい気がした。私のホストシスターは私たちのプレゼンテーションはとても面白かったよと言ってきて、とてもうれしかった。このような経験ができて本当に良かった。一緒に行った先輩、協力してくださった先生方に感謝したい。またこのような機会があればチャレンジしたいと思った。



ボーカムヒルズ高校でのプレゼンテーション

ボーカムヒルズ高校で過ごす最終日に、日本語の授業を受けている生徒の前でプレゼンテーションをしました。その日は、1、2時間目は授業、3～5時間目にリハーサルや準備、お昼の後7、8時間目に発表というスケジュールでした。このプレゼンのために準備を始めたのは12月。冬休みやテスト勉強の時間を使って、部活の大会に向けた練習や課題探究と両立しながら進めるのは、本当に大変でした。内容が固まってからも、こんな研究でいいのかという不安にかられ、辛い時期もありました。

また、スライドや原稿が完成してからは、内容よりも読むことに意識がいきってしまい、なかなか自分たちの考えが伝わるように話すことができませんでした。出発の前日まで準備をしてなんとかプレゼンを完成させ、いよいよ研修が始まりました。授業やホームステイなど全てが新鮮で、時間はあっという間に過ぎていきます。練習する時間もなく、プレゼンのことはほぼ頭にないまま本番の日を迎えました。しかし、6日間海外で過ごし、英語にも少し慣れてきていたためか、行く前に感じていたような不安や緊張はありませんでした。逆に、自分たちの発表を聞いてもらうのが楽しみでわくわくしていました。自分たちはトップバッターですぐに出番でしたが、落ち着いて話すことができました。また、今までで一番、「自分たちがこのプレゼン



で伝えたいこと」を意識して話し、伝えることができましたと思います。長い間準備をしてきた8分間はすごく短く感じられ、質問もなく終わってしまったのが少し残念です。しかし、終わった後、バディやその友達から「面白かった、わかりやすかった」と感想を言ってもらえ、この研修に参加してこの高校でプレゼンをすることができて本当に良かったと思いました。今回、プレゼンをするだけでなく、客観性のある研究をしたり互いに話し合っ

ボーカムヒルズ高校でのプレゼンテーション

今回の研修において一つの大きなイベントであるプレゼンテーションは、ボーカムヒルズ高校の授業参加最終日に行われました。

私は今まで、自分の調べたい事を実験で検証し、それをまとめてプレゼンをするといった経験がありませんでした。また、今回のプレゼンはグループ発表であったということもあり、ペアの子と予定を合わせて準備するのは予想以上に大変でした。さらに、部活を休んで準備を進めなければいけない日もあり、覚悟はしていましたが、辛いと感じてしまう時もありました。

けれど、私たちはたくさんの人たちの支えのおかげで、本番を成功させることができました。先生方は、私たちの研究発表内容を見て、実験の計画や進め方などについての様々なアイデアを下さったり、慣れない英語訳をした発表原稿を何度も添削して下さったり、朝早くのプレゼン練習を見てくださったりもしました。友達や親は、プレゼン内容について色々な意見やアドバイスをしてくれました。バディは、本番直前まで緊張する私を何度も勇気づけてくれました。そうして迎えたプレゼンテーション本番は、決して完璧ではなかったものの、悔いの残らない、良い経験となりました。たくさん苦勞をしたけれど、だからこそ得られた結果だと思っています。

一番嬉しかったのは、ボーカムヒルズ高校の生徒たちが私たちのプレゼンを真剣に聞いてくれていたことです。そして、プレゼンが終わった後に、たくさんの子が声をかけてくれました。きっと、周りの人の支えが無かったら、私たちがこんなにも清々しくプレゼンを終えることは無かったと思っています。そして、この研修のプレゼンテーション準備、本番のすべてを含めた経験を通して、化学実験、効果的なプレゼンテーションの進め方だけではなく、たくさんの人たちの支えのありがたさも学ぶことができました。そして、私はこの経験をただ単に自分の思い出としてしまっておくのではなく、いろんな人に伝えていきたいと思っています。そしてそれが誰かにとっての刺激になり、私のように人生において素晴らしい経験をする人が増えるといいなと思います。



ボーカムヒルズ校の授業に参加して

私は、5日間ボーカムヒルズ高校でバディーと一緒に授業を受けました。その中で驚いた事が3つあります。1つ目は生徒全員がノートパソコンを使って授業を受けている事です。教科書の多くがデータ化されていて、生徒はノートを取ったり、レポートを作ったりしていました。いつも重い教科書やノートを背負って登校している私たちにとっては衝撃的でした。

2つ目は、授業の受け方です。ひとことで言い表すなら「自由」です。自分が受ける授業の教室に移動して座席は自由席です。それぞれの授業ではあまり板書はなく、先生が口頭で説明したことについて、質問したり

ノートパソコンに打ち込んだり、生徒一人ひとりが積極的に授業に参加している印象を受けました。

3つ目は、**assignment** と呼ばれる意見文を書く課題の多さです。中でも英語（日本でいうと国語）の授業は、授業中に先生が書き方を指導したり、授業で習ったことを整理したりして残りは家で仕上げます。他の教科でも多くの **assignment** が出されていました。私のバディは、その日に6つの課題が出ていてとても大変そうでした。しかし私は、この **assignment** が自分の将来に大きく役立つものだと感じました。せっかく習った事をただ受け身で聞いてテスト前にノートだけを見直して良い点を取ったとしてもそれはその人のためにはなりません。「自分の意見を持ち、それを相手に伝える」という力が、将来大いに役立つと思います。**assignment** が多いのは、その点で素晴らしい事だと思いました。

私が最も印象に残った授業は、**DRAMA** という劇の授業です。グループに分かれて、与えられたテーマを元にして、脚本や振り付けを自分達で作ります。全員表現力が豊かで授業中はひとつの教室で各グループそれぞれが活動していて、練習をしながら演技の細かい点まで話し合う生徒の積極的な姿を見ることが出来ました。私も参加していてとても楽しかったです。

今回の研修を通して私はたくさんの事を学ぶことが出来ました。このような貴重な経験をさせていただき、ありがとうございました。



初めてのホームステイ体験

1週間という短い期間のホームステイだったけれど、日本で毎日同じサイクルで淡々と過ごす生活とは比べものにならないほど濃厚で充実した1週間でした。

まず、バディの家に着いて思ったことは「広い!」ということです。家の中を案内してもらっているときに「This is your room」と言われたときは驚きました。

最初の二日は天気が良くなかったということもあり、授業を受け、学校から帰ったら家で過ごしていました。その時は翌日の昼ご飯を一緒に作ったり、ギターの弾き語りを聞かせてもらったり、バディが好きな日本のアニメと一緒に見たり、飼っている犬と遊んだりしました。会話をしていて、聞き取れないことも多くありましたが、聞き返すと簡単な英語にしてくれたり、日本語に変えて話してくれたので、気軽に話しかけることが出来ました。

三日目は、朝早く起きて走り、授業後はショッピングモールへ買い物に行きました、その後、今回の研修で僕が最も驚いたことが起こります。それは、高校二年生のバディが車を運転していたことです！オーストラリアでは16歳から条件付きで車の運転の練習ができるそうです。そして、バディの運転する車で習い事の手続きまで行きました。

四日目になると、ホストファミリーの言っている英語が聞き返さなくても一回で理解できるようになってきました。そしてこの日は、家族でよく行くというベトナム料理の店に連れて行ってもらいました。わからない料理名のは説明してくれたので楽しくご飯が食べられました。食事中に「君の名は。」が好きだと話していたら帰りの車で「君の名は。」の曲を流してくれました。

五日目は、授業の後に4組の明和生とそのバディ、そして二人の生徒でアイススケートをしました。その後もゲームセンターへ行ったり、スイーツを食べたりといかにも「学校帰りの高校生」らしい遊びをたくさんしました。この日の夜は家族で写真を撮り、最後にたくさん会話をしました。

今回の研修がこれほど楽しく充実したものになったのはバディがいてくれたからだと思います。今年の9月ごろに日本に来るそうなのでそのときは、今回のホームステイのときのように楽しく会話をしたいです。



初めてのホームステイをして

今回が私にとって初めてのホームステイで、ホストファミリーはどのような方達なのだろう、と最初は緊張していました。でもバディと学校からスクールバスに乗りお母さんの車まで行くと、お母さんはとても親切な方で安心しました。その日は夜ご飯を食べにレストランへ行き、そこでバディのお父さんとお姉さんに会いました。皆さんすごく優しい方々で、オーストラリアや家族について私に話して下さいました。その後バディとWiiをして遊びました。いつも日本語の部分が英語になっていたのが新鮮でした。バディは日本が大好きで、私よりも日本のドラマや漫画について詳しく、家で一緒にジブリの映画をみたりドラマについて教えてくれたりしました。そのくらい日本を好きでいてくれて嬉しかったです。家ではパソコンを使って課題の動画を作ったり、宿題をしたりと大変そうでした。動画を撮って編集するという課題は日本では聞いたことがなかったので驚きました。そして私のホストファミリーは韓国の方だったので、家族間の会話ではよく韓国語を使っていま



した。でもご飯を食べる時などは英語を使って私に話しかけて下さりました。私が英語を理解できず聞き返したときは言い換えて下さったり、バディとお父さんは少し日本語が話せるので日本語に訳して下さいたりし、私がかうまく話せず言葉に詰まると、私が言いたいことを予測して助けて下さってとてもありがたかったです。でも自分の英語力の無さを痛感したのもっと力をつけないといけないと思いました。また、韓国風のしゃぶしゃぶや巻き寿司も食べさせてもらえました。どちらも入っている具材が日本と少し違いましたが、味は似ていておいしかったです。このホームステイでは日本と韓国の違いも知ることができ、貴重な体験ができました。私を温かく迎えて入れて下さったホストファミリーのおかげでとても楽しく過ごすことができて、忘れられない経験となりました。

パナソニックオーストラリアの研修に参加して

3/6はパナソニックオーストラリアを訪れました。パナソニックは1918年に松下幸之助が立ち上げ今年で創業100年の日本が誇る電気メーカーです。白物家電などのエレクトロニクス分野、住宅分野や車載分野など幅広い分野をてがけていて、家電業界で国内首位、家電、白物家電業界で世界5位、リチウムイオン電池や航空電子機器、業務用プロジェクターでは世界首位という輝かしい実績を残しています。この研修では、パナソニックオーストラリアに駐在中の鈴木さんが講師として



私たちに「海外で求められる人材」について話して下さいました。鈴木さんの体験談を交えたとてもためになるお話は、英語力やコミュニケーション能力だけでは充分ではなく他に素直さ、課題設定/解決力、忍耐力、ダイバーシティの理解、既存概念にとらわれない柔軟思考、人材育成力が求められるということでも興味深いお話でした。広く多くの人に耳を傾け、常に課題意識を持って失敗を恐れずに経験を積みたいと感じました。



また、日本人は仕事に重きを置くため残業もしますがオーストラリア人は家族に重きを置くため17時にはみんな帰ってしまうそうです。日本とオーストラリアの間で働き方に対する違いに驚きました。ぼくを含め多くの研修

生が将来海外と関りをもった仕事につきたいと考えているためとても参考になるお話でした。今回の研修で学んだことをこれからの生活につなげ、またパナソニックのスローガンである「A Better Life A Better World」のように僕たちも、「幸せが続くいい暮らし 持続可能な社会の実現」を求めて日々生活していきたいです。このような貴重な研修を用意してくださった関係者の皆様、有意義な時間を本当にありがとうございました。

シドニー大学 河合玲一郎先生の講義を聞いて

3/9はオーストラリア最古の名門大学であるシドニー大学へ行きました。シドニー大学はとても広く、建物は昔ながらのものと現代風のおしゃれなものが並んでいて、緑も豊かな素敵なところでした。ここでは、サイエンス学部の河合玲一郎先生より日本人が海外で活躍することに関するお話をしていただきました。その中で、私が一番印象に残ったのは、日本人は何かの理由を尋ねられた時、「なんとなく」や「みんながやってるから」で済ませてしまい、自分でよく考えずに物事を行う思考停止の状態であるということです。先生のお話を聞くと、確かに私もそのように済ましてしまっていることがわかり、衝撃を受けました。さらに、生まれた時からこのような文化のもとで生活してきた日本人にとって、海外の人のような思考力をつけるのはほぼ不可能だという事実を知り、少し愕然としてしまいました。前日までの研修でオーストラリアの人々の積極性や考え方の違いは十分感じていましたが、ここまで差があるとは思わなかったからです。しかし、私はこの思考力を出来るだけ体得したいと感じました。どんなことも目的があり、それを言葉に表して伝えるということは面白いと思うし、それが出来れば研修中に答えられなかったボーカムヒルズ高校の生徒からの質問にも答えられたのではないかと考えたからです。他に印象に残ったのは、海外で働くには文化や言葉の違いを乗り越えられるだけの好奇心が必要だということです。



河合先生の話聞いていて、私は、自分のやりたいことを実現していくには相当な忍耐と努力が必要なのだと感じました。河合先生は一人で海外に出てきて何度も失敗しながらも自分が本当にやりたいことをやるという強い気持ちを持っていて、私もそれぐらいの覚悟をもって将来に向かって努力していきたいと思います。最後にこの講義は自分の将来を考える上で聞いておくべき講義であったと思うし、この話をこれからの人生で活かしていきたいと強く感じています。そんな講義を私たちにして下さいました河合先生、本当にありがとうございました。

日本人の当たり前とは

ボーカムヒルズ高校からバスに揺られること約1時間、まず私たちを出迎えてくれたのは美しい青空の下、緑に囲まれ、シドニー内の高いビルにも劣らない迫力をもった古風なキャンパスだった。(某ファンタジー小説の世界観を感じている生徒も多いようだった。) そのキャンパスの中のある教室で、シドニー大学で統計学について学ばれている河合玲一郎教授からお話を伺った。講義の内容は、統計学というよりも、思考訓練(海外で働くためには必要不可欠である、なぜ? どうして? などといった疑問を身の回りのことに対してもち、考えるという訓練)についてだった。私がその講義の中で1番驚いたのは、日本人の良さの1つである以心伝心・忖度は、海外では全く通用しないということだ。教授は、パーティで食事が前に並んでいるとき、日本人は先にどうぞと、勧める場合が多い。日本内でなら問題ないが、海外では少し残そうなんて、相手のことを考えることはないで、一瞬にしてなくなってしまう。そこで、普通そんなことしないよねと、言うだろうという例を挙げてくださった。東日本大震災や平昌オリンピックでは、日本人の相手を思いやり、自分第一には考えないところが素晴らしいと褒めたたえられたこともあったが、このような例から考えると、大抵の日本人は日本と同じ感覚で海外に行っては、必ず負けてしまうことがよく理解できた。さらに、言語能力はもちろん、好奇心、独立心、生活水準、性悪説など、海外で生活する上でのキーポイントもお話ししてくださった。



この講義を通して、海外だけと海外と国内の両立では正反対の行動を取らなければいけないことがわかったので、自分は将来、どこで何をしたいのか、これから思考訓練をしていくかどうかを考えるよい機会になった。また、日本の当たり前・普通というのは、改めて考えてみると、どこか不思議で、特殊なものであると感じ、日本を客観的に見ることもできた。自分の固定概念が覆された、興味深い講義でした。

フェザーデール・ワイルド・ライフパークに行って

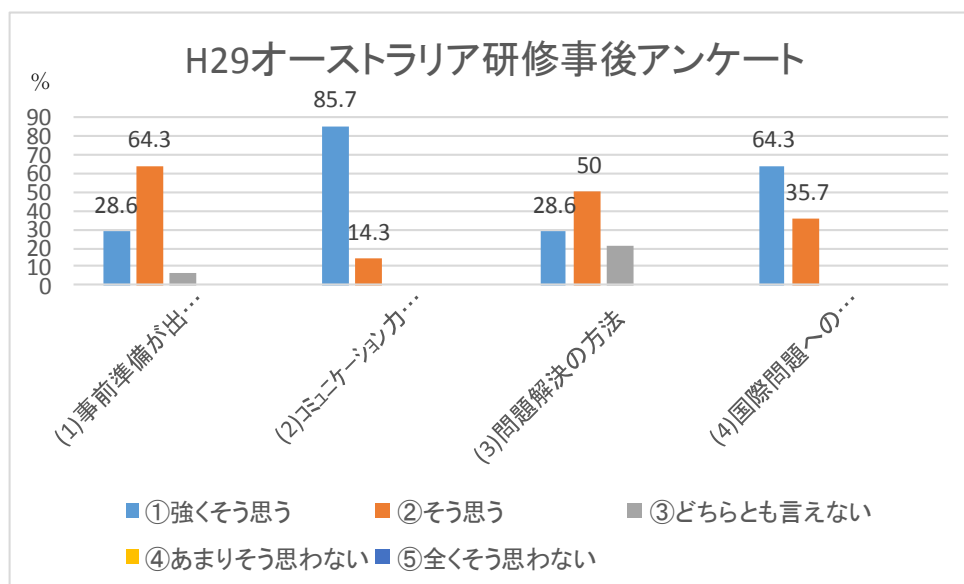
シドニーでの最終日に、フェザーデール・ワイルド・ライフパークに行きました。フェザーデール・ワイルド・ライフパークは大きな動物園ではありませんが、コアラやカンガルーなどのたくさんの動物がいます。バスで行きましたが、帰るときには駐車場はバスでいっぱいだったので、人気の観光スポットなのかなと思いました。ガイドさんに連れられてコアラのいるエリアに行きましたが、その途中に鳥がたくさんいて、その鳥にも興味を持ってしまいました。コアラは自分が思っていたより頭が大きく、ずんぐりむっくりだなと感じました。コアラは10匹くらいいて、そのうちの1、2匹は触って写真を撮ることができます。コアラを見ていて気づいたことがありました。それは、コアラは木の高い所にいるということです。勘でしかないですが、ユーカリは葉が高い位置についているからなのかなと思っています。コアラのいるエリアの奥には動物にエサを与えられるエリアがありました。そこには、あまり動物はいませんが、オーストラリアの動物であるエミュー、カンガルーと背比べをしようというパネルがありました。エミューもカンガルーも180cmもありました。予想以上の大きさに驚きました。時間の問題でしっかりと見られませんでした。フェザーデール・ワイルド・ライフパークには鳥が多くいました。ペンギンやオウムなどです。私たちの滞在時間は1時間ほどだったので、すべてをしっかりと見て回るということはできませんでしたが、オーストラリアの地でコアラやカンガルーが見られて嬉しかったです。今度また、シドニーに行ったらしっかりとみたいと思います。



I：選択式（主観的調査）

〔①強くそう思う ②そう思う ③どちらとも言えない ④あまりそう思わない ⑤全くそう思わない〕

- (1) 研修に行く前の準備は十分できていた。
 (2) 研修に参加して英語によるコミュニケーション力が高まった。
 (3) 研究発表交流をすることで、既存の知識を用いて問題を解決する方法に気付いた。
 (4) 国際的な問題に取り組む意欲が湧いた。



II：記述式（客観的評価） * 抜粋

- (1) 研修前に期待していたことはどんなことですか。

オーストラリア研修を通して自ら積極的に英語を使用してコミュニケーションをとれるようになることです。日常生活の中で英語を組み立てて会話をするだけでなく、意見発信の機会になればよいと思っています。プレゼンテーションを行うことができるということでそのような機会を利用することでも英語力を向上させたいと思っています。また、世界で活躍できる人になるためにオーストラリアと日本の文化の違いに触れて幅広い知識や教養を身につけ、客観的に日本について学ぶきっかけになることを期待しています。さらには異なる価値観に触れ、多様な考え方を受け入れることができるようになりたいです。オーストラリアはいろいろな人種の人たちがいると思うので、多くの価値観に触れることができると思います。日本人にとって考えられないような常識を理解し異なる文化背景を持った人たちと会話することで、自分なりの新たな考えを見つけられるようになりたいです。

私が研修前に期待していたことは3つあります。1つ目は英語力を高められることです。私は英語を勉強するときほとんど机に向かっていて実際に人と話すことがないので、この研修でオーストラリアの方と英語で話すことで力をつけられると思います。そして自分の英語が相手に伝えられたり、相手の言っていることを理解できたりすれば英語に対して自信を持てるようになると思います。2つ目は日本とオーストラリアの違いを学ぶことです。オーストラリアの文化や生活を肌で感じることで、日本にいたときにはわからなかった日本の新たな一面に気づけると思います。それに気づくことで、今まで当たり前だと思っていたことがオーストラリアではそうではないなどの発見をすることができて、自分の視野を広げられると思います。3つ目は、パナソニックやシドニー大学を訪問することで将来の生き方について考えられることです。それを自分の進路を決めるときに生かしたいです。

私は、自分の英語力を高め、日本とオーストラリアの文化の違いを直に感じたいと思ってこの研修に参加しました。私は前から英語が好きでしたが、海外からの生徒が来たときに、自分の英語での会話力の低さを実感しました。そこで、この研修で、普通の旅行ではできないような高校生活やホームステイという経験をすることで、自分からたくさん英語を使い、会話力を高めたいと思いました。また、小さい頃から、言語や食といった様々な外国の文化に興味を持っており、またこれからの時代は多様な文化への理解がさらに必要になってくると思ったので、この研修を通してオーストラリアの文化や日本との違いを学び、日本とは異なる文化への理解を深めたいと思いました。

(2) 自分にとって、研修で得られたことはどのようなことですか。具体的に記述してください。

研修前に期待していたコミュニケーション能力の向上はボーカムヒルズ校の授業やホームステイを通して感じることができ、今回の研修が今の自分の英語力を知るきっかけにもなったと思います。前々から準備して来たプレゼンテーションを成功させることができたことも自信につながりました。また、日本では見られないような自然や動物を見ることで自分の存在の小ささを知るとともに世界の広さを認識することもでき、貴重な体験をすることができました。さらにはパナソニックオーストラリアでは海外で求められる資質を学んだり、シドニー大学では日本人の思考を厳しく指摘していただいたりして、世界に出ていく上で自分たちに何が求められているのかも知ることができました。他にも学ばなければならないことがたくさんありました。その一つがボーカムヒルズ校の生徒の積極性です。ボーカムヒルズ校の生徒は授業中でも気になることがあるとすぐに手を挙げて質問をし、納得がいくまで議論をしていました。これは自分にとっては新鮮で疑問をそのままにしておかないという姿勢を学ぶことができました。

私はこの研修を通して自分の英語の能力高めることができたと思います。この研修が始まるまでは、自分の英語に自信がなくて積極的に話すことができませんでした。日本を出発してすぐの頃も、自分の力だけでは英語を理解できずとても不安になりました。でも英語に囲まれて生活することで、だんだん何を話しているのか、何と言えば良いのかが分かるようになりました。またオーストラリアへ実際に行ったことで、日本では気づけないことがたくさんあるということがわかりました。私が特に驚いたことは、家では親の国の言葉を話し、学校では英語を話し、さらに学校で他の国の言葉を学んでいるという生徒がいることです。日本ではこのような人を見たことがなかったので、移民の多いオーストラリアならではのかなと感じました。そしてパナソニックとシドニー大学でお話を聞いて、自分に足りないものが何なのか気づくことができました。このまま海外で働けば負けるというお話があり、日本人特有の性格は素晴らしいと言われることもあるけれど、どこでもその性格がプラスになるとは限らないとわかりました。

私は、この研修で実際に現地の高校に通ったり家庭で生活をしたことで、食事やバスの乗り方、授業の様子といった身近な場面での日本とオーストラリアの違いがわかりました。1週間その文化に囲まれて生活をしたため、異なる文化への理解を深められたと同時に、改めて日本の良さにも気づくことができました。また、日本語の授業に参加して、自分と同じように母語以外の言語を学ぶ生徒たちと交流したり、バディが進んで日本語を使い一生懸命学んでいる姿を見たりしたことで、英語を学ぶモチベーションが上がりました。言語を身に着けるためには、間違いを恐れずに自分から進んで話すことが重要だということも実感できたので、これからも英語が使える機会を大切に、進んで英語を話そうと思いました。

(3) これを機会に、さらに高めたいと思う能力は何ですか、自由に記述しなさい。

この研修を通じてまだまだ英語力が足りていないと痛切に感じました。特に高めていかなければならない能力はリスニング力だと思っています。ホームステイでバディと会話する際に何度も聞き返してしまったり、理解できずに愛想笑いをしてしまうことがあったりして純粋に会話を楽しむことができませんでした。他にも、店員に食べ物を注文するという些細なことができず、言葉の壁を感じることがありました。なので、英語を聞き取る能力を向上させ、会話を楽しめるようになりたいです。また、伝えたいことが文法にこだわりすぎて伝わらなかったり、文法を無視しすぎて伝わらなかったりというもどかしさもあったのでまずは日常会話から要点を抑えて伝えられるようになりたいです。他にも、海外の人とやっていくために必要なことのひとつとして学んだ「課題決定・解決力」の能力が自分には不足していると感じました。それは物事を「なんとなく」という思考で片付けることが原因だと学んだので日常生活のあらゆることに疑問を持ち、自分なりの解決策を立てることを習慣づけていきたいです。

私はもっと英語を上達させたいです。ホストファミリーやバディやその友達と話すときになかなか英語を理解できずたくさん聞き返してしまい、理解できてもすぐに答えられずとても悔しかったです。だから正確に英語を聞き取れるようになって、自分の言いたいことを頭の中で整理しすぐに文を組み立てられるようになりたいです。語彙力がなくていつも同じ言葉ばかり使ってしまったので、色々な言い回しもできるようにしたいです。また、バディから日本語の意味を教えてと聞かれたときに、自分自身でもその言葉の定義をよくわからずに使っている言葉があることに気づきました。だから英語だけを上達させれば良いということではなく、日本語もきちんとその言葉の意味を理解して使わないといけないと思いました。そしてその言葉の意味を説明するときには1番適切な英語を選ぶことが必要だと思うので、やはり語彙を増やして的確に説明できるようにしたいです。また、今回の研修では私が相手に話しかけた回数よりも相手から話しかけてもらった回数の方が多かったのも、コミュニケーションを自分からとっていけるようにしたいです。

この研修を終えて、私がこれからさらに高めたいと思うのはコミュニケーション能力です。コミュニケーション能力といっても、大きく分けて二つあります。一つは英語力です。研修へ行く前から、英語で言いたいことを言えないのをとてももどかしく感じていて、この研修でバディと話しているときもそう思ったので、もっと語彙や使える表現を増やしたいです。また、実際に海外へ行って、自分が英語で話しても伝わらないことがあったため、発音や話す速さなどももっと上達させたいです。もう一つは、英語に限らず相手の意見を理解し、自分の考えを正しく伝える力です。パナソニックやシドニー大学での講義を聴いて、この力の大切さが改めてわかりました。この力をつけるためには、まずしっかりと自分の意見を持つ必要があるので、普段から回りにあわせず自分の頭で考えるようにしたいです。

